

国際社会保障協会 年次報告書 2007-2008 年

「すべて人は、社会の一員として、社会保障を受ける権利を有する」
1948 年世界人権宣言第 22 条

国際社会保障協会(ISSA)は、各国の社会保障機関を一つにつなげる世界有数の国際組織である。ISSA は、世界中でダイナミックな社会保障制度・政策を構築し推進するため、加盟機関に様々な情報や専門家の助言、調査や討論会の機会を提供している。ISSA は 1927 年に設立され、現在、150 カ国の 350 団体が加盟している。

ISSA の目標は、優れた社会保障行政の支援を通じて、グローバル化する世界の社会的側面としてダイナミックな社会保障を推進することである。ISSA は、社会保障へのアクセスをより確実にするため、総合的で首尾一貫した積極的な革新と前向きな政策・プログラムに適応し、また、それらを促進するような社会保障を支持している。

現在の ISSA: 全世界の社会保障の推進と発展

今年は、社会保障の権利を正式に記した世界人権宣言が採択されて 60 周年に当たるが、ISSA は、世界中の社会保障の情報を有する国際機関の拡大と普及に取り組む先進的な組織として発展し続けている。

昨年、ISSA は創立 80 周年を祝い、新たな ISSA の構築を目指して重要な構造改革に着手した。2007 年 9 月にモスクワで行われた第 29 回総会で承認された 2008-2010 年の事業・予算案は、ISSA 加盟機関との包括的な協議、さらに ISSA 役員会(Bureau)との調整の上に生まれたものである。そこには、新しい戦略的ビジョン、ISSA が目指すもの一つ、加盟機関に関連性のある機関となり、加盟機関に明確な付加価値を提供し、社会保障の発達に実質的に寄与すること一を反映した一連の目標と期待される成果が明示されている。その事業・予算案が満場一致で承認されたことは、ISSA の役員が満場一致で再選されたことと同様に、新しくそしてより力強い ISSA を作り上げる計画が支持されていることを顕著に証明するものである。

ダイナミックなプログラム

新しい方針を象徴するものとして、ISSA の第 29 回総会は、社会保障に関する世界的な知識共有に焦点を絞った大規模なイベントに組み込まれた。第 1 回世界社会保障フォーラムは、グローバル化の社会的側面としての社会保障の役割に対する新しい集団的理解を促進する重要な分岐点となった。フォーラムを通じて、また、総括報告書「発展と動向(Developments and Trends)」も基盤となって、ダイナミックな社会保障が今後の方向として支持された。ダイナミックな社会保障という概念は、利用しやすく持続可能な社会的保護制度をより確実にすることに重点を置く ISSA の考え方を明確に示すものである。このような制度は、保護を与え、予防を奨励し、リハビリテーションや社会復帰を支援するだけでなく、より包括的で生産的な社会の実現に寄与しなければならない。

技術委員会の新たな取り組みも、2007-2008 年に導入された構造改革の一つである。2008 年 1 月にジュネーブで開催された第 2 回技術委員会フォーラムは、技術委員会が ISSA の 3 カ年計画の期待される成果に結びつけて業務計画を調整する機会となった。

新しい会員サービス

これまでの取り組みに加えて 2007 年には ISSANET が導入され、会員サービスの強化が図られた。ISSANET は会員用のエクストラネットで、電子図書館や電子作業空間を提供し、会員の交流を可能にし、さらに当協会の月刊ニュースレター「Update」を発信する。こうした会員専用サービスの他に、ISSA は、社会保障に関する独自のニュースや情報を会員や一般の人々に提供する新しいウェブポータルを開発した。このウェブポータルの重要な点は、専門的なデータベースや、各国の社会保障制度、改革、資源に関する情報を入手しやすくなったことである。

さらに、第 97 回 ISSA 役員会議において新しいビジュアル・アイデンティティが採用され、新しい 3 年間をスタートさせた。新しいロゴとコーポレートデザインにより、ISSA の遺産が引き継がれ、ISSA の印刷/電子通信の一貫性が強化される。

地域活動の強化

さらに今年度は、地域レベルで数々の重要な革新が行われた。特に注目されるのが、初めての地域 ISSA 連絡事務所とネットワークの開設である。これらは、ジュネーブの事務局と緊密に協力して、ISSA の活動の地域的側面を強化し、それにより ISSA と世界中の会員との関係を深めることを目指している。地域社会保障フォーラム (RSSF) の計画も、あらゆる地域の社会保障の推進と発展に ISSA が深く関与していることを示すもので、最初の会合は 2008 年 11 月にルワンダで開催される。ISSA は、地域ベースでグッド・プラクティス(優れた実践)を評価するため、RSSF の開催時に、地域内加盟機関を対象としたグッド・プラクティス賞コンテストを開始することとした。ISSA の最初のグッド・プラクティス賞は、ルワンダの RSSF で授与される。さらに、各地域で受賞した 4 機関すべてが、2010 年の世界社会保障フォーラムの全体会議で紹介されることとなる。

ISSA が重要な変革の時期を経たことは間違いない。新しい ISSA の課題の達成を目指して継続的に尽力し、大いに貢献している ISSA 事務局と地域事務所のスタッフに感謝の意を表したい。さらに、様々な行事を主催し、地域事務所を運営し、専門的なアドバイスや意見を提供してくれる加盟機関の寛大さにも感謝したい。これらがなければ、多くの活動の成功はなかったであろう。

ISSA の設立 80 周年は、当協会の設立に有益な役割を果たした国際労働機関 (ILO) と ISSA の力強い歴史的つながりを思い起こさせる。80 年後の現在、万人のための社会保障という共通の目標を達成するために、両組織にしっかりした協力関係が続いていることに我々は大いに満足している。

最後に、ロシア連邦の会員から並々ならぬ支援を受けて 2007 年の第 1 回世界社会保障フォーラムが素晴らしい成功を収めたことについて、あらためて心から感謝したい。

この年次報告書が、数々の活動や事業を通じて ISSA の独自性を理解するのに役立つことを願っている。

一年を振り返る:

ダイナミックな社会保障を目指して

社会保障へのアクセスは人間の権利である。しかし、世界の人口の半数以上は社会保障で保護されていない。社会保障プログラムの財政上の持続可能性を確保しようとする中で、給付水準の妥当性と個人のニーズの変化に適応した保護の必要性は、しばしばなおざりにされている。

社会保障機関は常に、様々な課題について革新的な対応策を探し求めている。経済のグローバル化、労働市場の柔軟性、人口動態の変化、技術革新、家族構成の変化等すべてがまとまって、社会保障に対して、適応するよう圧力をかけてきている。2007 年 9 月にモスクワで開催された第 1 回世界社会保障フォーラムで、ISSA のハンス・ホルスト コンコルスキー事務総長は、人口の高齢化、低い保障水準、格差の拡大という課題に取り

組むために、政治的努力を強化し、社会保障の概念を拡大することを求めた。

ISSA は、人々のニーズの変化と多様化に対応し、普遍的で利用しやすく十分かつ持続可能な保障をよりいっそう確実にするために、総合的かつ積極的で前向きな社会保障政策・プログラムを支持している。ISSA の戦略的ビジョンは、優れた社会保障行政の支援を通じて、グローバル化する世界の社会的側面としてダイナミックな社会保障を推進することである。

より効率的な社会保障の運営を促す

優れた社会保障行政を目指そうとする社会保険機関を支援する ISSA のマニフェスト(委託された権限)は、業績改善する方法について、積極的に対話と意見交換をする会議の開催などを通じ、その任務を実施・実行することである。

社会保障のリーダーシップと革新

2007年7月にオーストリアのウィーンで開催された管理運営、組織及び手法に関する国際会議には、世界中の社会保障機関から225名の最高責任者が集まり、社会保障組織の変革管理の実践の経験を共有し、それらの研究結果について討議した。このイベントは、世界的な経営コンサルティング会社、アクセンチュアの協力を得て実施された。

CEO セミナー

ISSA は 2007 年、社会保障機関の CEO 向けに、改革の管理に焦点を絞った二つの集中セミナーを開催した。最初にアフリカとアジアのアラブ諸国を対象とし(2007年5月、アンマン(ヨルダン))、その後、フランス語を話す CEO 向けのセミナーが行われた(2007年6月、ティヴォンヌ・レ・バン(フランス))。参加者によると、これらのセミナーは、しばしば同じような問題に直面している幹部が互いの経験を交換する貴重な機会となった。

第1回世界社会保障フォーラム
第29回 ISSA 総会
モスクワ(ロシア連邦)
2007年9月

第1回世界社会保障フォーラムには、126カ国から1,169名の大蔵、政策立案者、行政官、学者が集まった。ロシア連邦のISSA加盟機関が主催者となり、ダイナミックな社会保障を追求する現在の課題と将来の解決策について専門家が話し合う対話型の討論会が行われた。総括報告書「発展と動向」は、ダイナミックな社会保障が今後の方向であることを証明している。

世界社会保障フォーラムのハイライトはサミットで、社会保障の将来について話し合うユニークな討論会が行われた。パネリストは、より広範な社会保障の概念を取り入れるべきであるというコンセンサスに達した。さらにパネリストは、貧困を軽減し不平等を緩和する社会保障の役割について検討し、経済成長と労働市場の実績は不可欠だが、「グローバル化は社会的側面を持たねばならず」、社会保障は平等とより公平な社会を促す上できわめて重要な役割を果たすということに同意した。

次回の世界社会保障フォーラムは、2010年に南アフリカのケープタウンで開催される。

社会保障に関する諸問題でつながる

ISSAは、協力して横断的問題を検討するため、世界各地で様々な社会保障分野での討論会を開催している。これらは、幅広い分野横断的な問題についてすべての地域で開催される。

社会保障と労働市場：ミスマッチか

この物議を醸しそうなタイトルの国際社会保障研究会議は、2007年3月にポーランドのワルシャワで開催された。この国際会議には社会保障に携わる行政官や研究者、学者が集まり、100以上の研究論文や発表が、労働市場の柔軟性の増大、非正規雇用、勤労生活の長期化、グローバル化などの問題と社会保障の調和に焦点を当てた。

勤労生活について取り込むこと

2007年5月にノルウェーのオスロで開催された重要なヨーロッパ地域会議では、人口動態の変化や労働市場の傾向、社会保障制度の持続可能性を確実にする必要性に焦点が当てられた。この会議にはヨーロッパ26カ国の社会保障責任者が参加し、雇用傾向と給付資格の変化、効果的な広報手段の重要性について考えた。

将来の社会保障資金調達について計画する

保険数理推計は社会保障の資金調達の基礎となる。2007年5月にフィンランドのヘルシンキで開催された社会保障アクチャリーと統計学者の国際会議では、62カ国の専門家が、変化する人口動態と不安定な経済という状況で社会保障と年金制度の保険数理評価に用いられる仮定について考えた。

社会保障の権利について明確に謳う

2007年11月にコロンビアのボゴタで開催された、ISSAと社会保障に関する米州会議(CISS)の注目すべき合同会議では、社会保障の権利を国家的議題に正式に記す立法責任に焦点を絞って、主要な議論が交わされた。

予防策は有益である、というメッセージを伝える

職場での事故と職業病の高い発生率は、世界中の社会保障制度の主要な懸案事項である。業務関連の病気または事故が原因の死亡は、毎年200万人以上になると推定されている。これらの問題に取り組み予防を促すため、ISSAは労災事故および職業病に対する保険の問題に重点を置いた技術委員会を設けるだけでなく、予防に関する特別委員会の指揮の下で、11の国際予防部門からなる独自のネットワークを運営している。

2007-08年は、2008年6月29日-7月2日にソウルで開催される第18回労働安全衛生に関する世界会議の準備を進めつつ、一方で、アスベストキャンペーンは引き続き業務計画の重要な部分を占めた。さらに、国際部門はアテネ(医療サービス)、ハノイ(鉱業)、プラハ(製鉄・金属工業)、パンブローナ(農業)の様々な分野別に、職業上の危険の予防に関する一連の国際会議を開催した。ISSAは、職業病の予防に関する一連のセミナーを続けており、2007年3月にカメルーンのクリブで行われた会議には、アフリカ地域の20カ国以上の組織が参加

した。この会議では特に、正確なデータ収集の重要性と様々な国のグッド・プラクティスの事例研究が注目された。

ISSA 加盟機関は、2007 年は「安全で健康的な職場—ディーセント・ワークを現実にする」、また 2008 年は「私の人生、私の仕事、私の安全な仕事—職場のリスクを管理する」というテーマの下で、4 月 28 日の労働安全衛生世界デーを支持するために結集した。労働安全衛生世界デーは、ILO によって開始され ISSA が支援する、職場の安全を推進するイニシアチブである。

ISSA は、各国の社会保障機関を一つにまとめる世界有数の国際組織である。ISSA には、2008 年 5 月現在、144 カ国の 267 の正会員と 42 カ国の 83 の準会員があり、合わせて 150 カ国の 350 団体が加盟している。

南北アメリカ

会員

正会員 41 団体(31 カ国)

準会員 14 団体(5 カ国)

連絡事務所

南北アメリカ技術顧問

(ブエノスアイレス(アルゼンチン))

英語圏カリブ地区技術顧問

(バルバドス)

主要な会議

2009 年

第 16 回国際社会保障アクチャー、統計学者会議

期日:9 月 16-18 日

開催地:オタワ(カナダ)

南北アメリカ地域社会保障フォーラム

期日・開催地は未定

アフリカ

会員

正会員 69 団体(42 カ国)

準会員 10 団体(8 カ国)

連絡事務所

南アフリカ連絡事務所(プレトリア)—南アフリカ社会

開発省が運営

アフリカ技術顧問(アクラ(ガーナ))

主要な会議

2008 年

アフリカ地域社会保障フォーラム

期日:11 月 18-20 日

ヨーロッパ

会員

正会員 112 団体(43 カ国)

準会員 38 団体(18 カ国)

連絡事務所

欧州ネットワーク—オランダ社会保険銀行が議長を務

める運営委員会

主要な会議

2009 年

社会保障に関する国際政策・研究会議

期日:4 月 1-3 日

開催地:ルクセンブルグ

情報通信技術会議

期日:6 月 3-5 日

開催地:セビーリャ(スペイン)

2010 年

ヨーロッパ地域社会保障フォーラム

期日・開催地は未定

アジア太平洋

会員

正会員 45 団体(28 カ国)

準会員 21 団体(11 カ国)

連絡事務所

アラブ諸国連絡事務所(アンマン)—ヨルダン社会保

障団体が運営

東南アジア連絡事務所(クアラルンプール)—マレーシ

ア従業員準備基金が運営

主要な会議

2008 年

第 18 回労働安全衛生に関する世界会議

開催地:キガリ(ルワンダ)

期日:6月29日-7月2日

開催地:ソウル(大韓民国)

2010年

世界社会保障フォーラム

期日:11月21-27日

開催地:ケープタウン(南アフリカ)

2009年

アジア太平洋地域社会保障フォーラム

期日・開催地は未定

新しいISSAの構築:社会保障に関する知識と資源

ISSA 加盟機関は、信頼性がありアクセスが容易な電子・印刷資料、さらに会員向けのダイナミックなエクストラネットなど新しいウェブポータルを通じて、これまでにない広範囲情報を入手できるようになった。

知識移転への新しい取り組み

社会保障の展望台(オブザーバトリー)の機能を備えた新しいウェブポータルと、より分析的で的確なコンテンツに重点を置く新たな広報方針により、「E-Trends」は電子ニュースレター「Social Security Observer」に取って代われ、またISSA加盟機関限定のニュースと情報の月次会報「Update」が開始された。ISSAの社会保障に関する圧倒的なデータと情報の宝庫は、ウェブポータルの国別プロフィール、アクセスが容易になったデータベース「ソーシャル・セキュリティ・ワールドワイド」(SSW)は、テーマ別のアプローチの追加により、さらに利用しやすくなった。電子出版によって支えられるウェブポータルは、ISSAの知識普及戦略の中核機能として発達することとなる。

社会保障の発達と傾向に関する知識の移転

ISSAの80周年を記念する1冊の合併特別号、『国際社会保障レビュー「すべての人に社会保障を広げる」』。

『全世界の補足的・個人年金』シリーズの1冊の新しい本が、経済協力開発機構(OECD)および国際年金監督者機構(IOPS)との協力によって完成。

『全世界の社会保障プログラム』シリーズの2巻(アフリカおよび南北アメリカ)が、米国社会保障庁との協力によって完成。

3つの『社会政策ハイライト』で、労働市場、資金投資、医療という重要な社会保障のテーマを分析。

『国際社会保障レビュー』の4つの新号

第1回世界社会保障フォーラムのために4つの言語で出版された報告書、『発展と傾向:ダイナミックな社会保障を支える』の10の重要な章で、社会保障業務の最近の変化を記述。

アフリカと南北アメリカの19カ国の国別プロフィールを補足的・個人年金のデータベースに追加。

スキーム解説データベースで、81カ国の国別プロフィールに比較国家データの8つの表を補足。

112件の最近の改革を改革データベースに追加。

1,232件の電子・印刷出版資料を参考文献データベースに追加。

ISSAの会議、会合および世界社会保障フォーラムに2,280人が参加。

Social Security Worldwide(www.issa.int/ssw)の2007年のユーザーセッション数は、前年比14%増の48,964。

ISSA のウェブサイト(www.issa.int)の 2007 年のユーザーセッション数は、前年比 25%増の 1,019,734。

新しい ISSA のビジュアル・アイデンティティ

2008 年、ISSA は当協会の一貫した視覚的言語を確立するため、新しいロゴとコーポレート・ビジュアル・アイデンティティを導入している。新しいデザインは、当協会のプログラムや活動を包括的かつ統一された方法で視覚的にサポートする。

会員に情報を提供し、協力を促し、手を差し伸べる

ISSA エクストラネットの開始

ISSA は、加盟機関とのコミュニケーションや積極的な協力を促すため、新しいオンライン環境を開始した。ISSANET は、会員限定の専用エクストラネットであり、文書や出版物へのアクセス、経験やグッド・プラクティスの情報交換、当協会の様々な活動やプログラムの効果的な管理、情報収集を促すことによって、会員サービスの改善を目指している。

ISSANET:

<http://www-issanet.issa/int/>

すぐに手に入る社会保障の世界

ISSA は、社会保障に関する独自のオンライン情報資源とオブザーバトリー情報を提供するため、2008 年春に新しい多言語ウェブポータルを開始した。このウェブポータルには、各国の社会保障の概要と改革や制度のデータ、社会保障に関する世界中の重要なトピックやニュース、イベント、広範囲な文書や資源へのアクセスが含まれている。

ISSA 社会保障ウェブポータル:

<http://www.issa.int/>

ISSA を支える執行機関

国際社会保障協会は会員制の組織で、規約に規定された 3 つの主要な執行機関によって統治されている。

— 総会(General Assembly)は、実質的に当協会の規約制定会議であり、ISSA のすべての加盟機関が直接代表として参加する最高位の法定機関である。規約の条項を定める。原則として、総会は 3 年ごとに行われる。

— 評議員会(Council)は、当協会の選挙機関であり、少なくとも 1 つの団体が ISSA の正会員になっている国の名義上の代表で構成される。これらの国はそれぞれ名義上の代表を 1 名ずつ出す。特に、主要な機能は、会長、会計役、ならびに役員会および監査委員会のメンバー、さらに事務総長を選出することである。原則として、評議員会は総会が開かれる時に行われる。

ー役員会(Bureau)は、当協会の管理機関であり、ISSAの会長、会計役、事務総長ならびに世界の各地域を代表する選出メンバーで構成される。主要な機能は、行動計画、スケジュール、事業・予算を策定する際のガイドラインを明示し、プログラムの優先度を定め、実績を監視および評価し、加盟申請について判断を下し、財務規則を採択することである。さらに、当協会の活動プログラムを実施するために必要な技術委員会を確立し、その委託事項を決定する。役員会は毎暦年少なくとも1回会合を開く。

ISSAの主要な役員は、会長のコラソン・デラパス・ベルナルド(フィリピン)、副会長のスーザン・スコッティ(カナダ)、財務担当のウィム・フランセン(オランダ)、事務総長のハンス・ホルスト・コンコルスキー(デンマーク)である。

ISSAは、ジュネーブにある事務局を通じて、加盟機関に様々なサービスを提供し、技術委員会と緊密に協力する。

技術委員会

11の技術委員会は、ISSA加盟機関で構成され、専門家ネットワークや会議、セミナーの検証、報告書の発表を通じて、様々な社会保障分野の知識を高める。技術委員会の役員は、各3年間の最初に役員会によって選出される。

地域の組織

会員のニーズや地域の多様性にうまく対応するため、連絡事務所の新しいネットワークが構築されつつある。アンマン(ヨルダン)の事務所のモデルに基づき、ISSAの新しい連絡事務所は、地域の考え方により柔軟で包括的なアプローチを提供する。

ISSA加盟機関

他の様々な国際機関とは違って、ISSAの加盟機関は省庁や半官半民の機関、自治機関等である。

ISSA加盟機関には正会員と準会員の二種類がある。正会員には、政府の省庁、機関、局、その他事業体、それらの連盟が含まれる。準会員には、ISSAと同じ目標を持っているが正会員になる資格のない団体が含まれる。ISSAには2008年5月現在、144カ国の267の正会員と42カ国の83の準会員があり、合わせて150カ国の350団体が加盟している。

技術委員会

1. 雇用政策と失業保険
2. 統計的、保険数理的および財務的研究
3. 家族給付
4. 予防に関する特別委員会
5. 労働災害と職業病に対する保険
6. 情報通信技術
7. 社会保障基金の投資
8. 高齢・障害・遺族保険
9. 医療・疾病保険
10. 共済組合
11. 組織、管理および革新

<http://www.issa.int/>

地域の組織

ヨーロッパ

- －欧州ネットワークオランダの社会保険銀行が議長を務める運営委員会

アジア太平洋

- －アラブ諸国連絡事務所(アンマン):ヨルダンの社会保障団体が運営
- －東南アジア連絡事務所(クアラルンプール):マレーシアの従業員準備基金が運営

南北アメリカ

- －南北アメリカ技術顧問(ブエノスアイレス(アルゼンチン))
- －英語圏カリブ地区技術顧問(バルバドス)

アフリカ

- －南アフリカ連絡事務所(プレトリア):南アフリカ社会開発省が運営
- －アフリカ技術顧問(アクラ(ガーナ))

ISSA の活動

2008 年以降、ISSA は 3 年ごとに 4 回の地域フォーラムと 1 回の世界社会保障フォーラムを開催し、多数のトピックに関連した技術セミナーと社会保障の重要なテーマに関する国際会議を招集する予定。

ISSA は、主にウェブポータルを通じて、各国の社会保障プログラムの比較データを監視および発信し、主要な問題に関して調査や政策分析を行う。現在、ISSA 加盟機関間のグッド・プラクティスの収集や情報交換への関心が高まっている。ISSA は、知識の移転や主張を通じて社会保障の改善を推進し、ILO や社会保障の領域で活動するその他国際組織との協力を促している。

3 年間の 5 つの主要な成果を達成するための活動プログラムは、評議員会によって決定される。2008 年、技術委員会は初めて、これらの成果に貢献する 3 年間の業務計画を作成した。事務局と連絡事務所は協力し、これらの業務計画および当協会の継続的な活動を支援する。

2008-2010 年の ISSA プログラム

ISSA は、2008-2010 年の 3 年間に、次のような 5 項目の成果目標と補助的イニシアチブに重点を置く。

1. 管理・業務効率を追求する加盟機関の能力を高める

統治と社会保障
社会保障のリスク管理とリーダーシップ
戦略的管理ツールとしての情報通信技術
保険料納付遵守と保険料徴収

2. 社会保障改革プロセスに関与し対応する加盟機関の能力を強化する

世界中の社会保障の主要な動向の定期的な監視
来たるべき社会保障の課題の確認と分析
社会保障行政に関する国際的な指標 (barometer) の確立

3. 社会保障の適用範囲の拡大に取り組む加盟機関の能力を高める

適用範囲の拡大に関する現在の知識の検討
適用範囲の拡大に関する作業部会の設置

4. 人口動態の変化がもたらす持続可能性の問題に立ち向かう加盟機関の態勢を整える

人口動態の変化がもたらす持続可能性の問題に対応する社会保障改革の詳細な監視
人口動態の変化と社会保障－革新、グッド・プラクティス、学んだ教訓

5. グローバル化する世界の社会的側面としてのダイナミックな社会保障の可視性と、その重要性に対する認識を高める

社会保障の国際的な認知度を高める
1 回の世界社会保障フォーラムと 4 回の地域社会保障フォーラムの開催